

平成 28 年度第 2 回学校評議員会記録

1 日 時 平成 29 年1月 19 日(木)13:00~14:00

2 場 所 会 議 室

3 出席者(五十音順)

(1)学校評議員(4名)

A評議員(地域関係者)

B評議員(学識経験者)

C評議員(保護者)

D評議員(施設関係者)

欠席:E評議員(医療関係者)

(2)本校職員 (11 名)

校長 副校長2名 事務長 総括教務主任 小学部長 中学部長 高等部長 分教室主任
訪問教育部主任 生徒指導主事

4 内 容

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)協議・報告

ア 平成 28 年度学校運営について(校長)

イ 平成 28 年度学校評価結果について(副校長)

【B評議員】

学校評価に関して三点ほど意見がある。一つ目は、機械的に比較できるかどうかということである。具体的に言うと、「相談できる先生がいますか。」という質問項目で、小学部は高く、中学部、高等部になるにつれ低くなっている。これは年齢が高くなると自立していくので相談することは減っていくためとも考えられるが、年齢、発達段階に応じて質問を変えていく必要もあるのではないかと。先生方が頼りにされていないという解釈もなりたつが本当にそうだろうか。機械的に比較するのではなく、どう解釈するかであり、どう解釈するかによって対策が違ってくる。

二つ目は、教職員と保護者と関係機関の関係である。保護者と教職員が本当にうまくやれているという数字が出ている。関係機関も高い評価であり、これは非常に大事なことだと思う。多少違いはあるが、良好な関係である。

三つ目としては、全般に関わるが、根拠に基づく理解と支援を大事にしていくためのアンケートという位置づけである。機械的ではない解釈が必要である。

【D評議員】

相談できる先生という質問項目についてだが、施設から自立していく子どもたちは、先生方との関係の中で進路を決め、自立していく。その時に相談できたり親密になれる関係作りが大切である。施設を出た後、一番最初に先生方に情報が入ってくることが多い。関係作りに重点を置き、支援してもらえればありがたい。

(4)意見・提言

【A評議員】

学校評価をどう生かすか。私も校長をやっていたときに職員にアンケートとりながら学校運営を

行っていたが、職員側の評価は厳しくなりがちだった。本校は小学部、中学部、高等部とあって中学生など思春期であったりとそれぞれの年代に応じて見方が甘かったり、厳しかったりする。この評価結果を即、鵜呑みにはできないと思う。参考にしながら次の教育活動に活かしていくと良い。

今年度の学校運営のスライドの子どもたちの表情がすべてではないか。子どもたちから感じ取ることが大切である。感じ取るセンサーが低くなると先生方の教育の力はダメになっていく。センサーが低い先生をどうあげていけるかが課題である。みんなのレベルを上げていって、子どもたちの表情や様子から感じ取り、自分の指導はどうなのか見直すのが評価である。教員集団の教育に対する意識が高まれば学校の質がさらに高まっていく。先生方のレベルアップに使えれば良い。職員の子どもたちに接する力、力量を上げていくのに評価を活用してほしい。

【B評議員】

学級通信、学部通信を見て感心した。ホームページはあまり更新されていないようだが、これら通信をいろいろな形で活用するのが大事だと感じた。

「すべては AL LIGHT」という通信のコメントが良い。L が抜けていることに対する子どもからの意見に答える形で、本来はそうなのだがこれは RC サクセッションの曲名からとったものと書いている。子どもたちと先生方のやりとりが見えて良いと思った。ノーベル賞のことや社会の動きを書いている通信もある。通信をワクワクしながら読ませてもらった。

【C評議員】

スライドで子どもたちの様子を見せてもらった。PTA 会長をやらなければ小学部から高等部までの全体の様子は見えない。自分の子どものところしか見ないことが多いので、今回教育活動全体を見せていただき良かった。こんなに一生懸命取り組んでいること、先生方がすごく頑張っていることがよく分かった。リンゴ農場で職場体験をし、そこからカーボンオフセットの購入に発展したり、いただいたリンゴでアップルパイを作り、販売するにあたり宣伝のためになる白雪姫の劇をするという中学部1年の取り組みがあったが、そのような発展的な学習がすごく良いと思った。これからも楽しみながら発展的な学習に取り組んでいただきたい。

【D評議員】

病弱の特別支援学校では、かつては校内での支援が主だった。あまり外に出て行くことはなかった。今はどんどん外に連れ出して、体験を広めていただいている。

重度の子どもたちに対する iPad を活用した指導も子どもたちのやりたいことや思いをつかんでそれを表現させ、受け止めることにつながっている。このことがすごく大事であると感じた。

子どもたちの悪いところを底上げして平均するより、良いところをいっぱい伸ばして、悪いところを見えなくするような取り組みをやっていただいている。それにより子どもたちは自分もっているより良いものを表に出して、頑張っていると改めて感じた。先生方の実践が子どもたちを育てている。国体もいい経験になった。さらに子どもたちを外に連れ出してたくさんの体験をさせてほしい。学園も応援したい。

(5) 校長謝辞

(6) 閉会